

人権課題	① 女性	② 子ども	③ 高齢者	④ 障がい者	⑤ 同和問題	⑥ アイヌの人々	⑦ 外国人
	⑧ HIV感染者・ハンセン病元患者等	⑨ 刑を終えて出所した方	⑩ 犯罪被害者等	⑪ インターネットによる人権侵害			
	⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	⑬ その他（性の多様性と人権・性的マイノリティの人権など）	⑭ 人権教育一般				

※人権課題の分類は、平成14年3月、国が策定した「人権教育・啓発に関する基本計画」によります。

ホームページ掲載情報																	
地域	人権課題														氏名・名称	活動内容（表記は、登録者・団体の登録票による）	ホームページ アドレス
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭			
南信		○		○										○	社会福祉法人日本聴導犬協会	聴覚障がいまたは肢体障がいのある方々への聴導犬・介助犬の無料貸与。聴導犬・介助犬の普及啓発活動としてのデモンストレーションや講演会（有料）、学校の総合的な学習への情報提供。2023年2月から長野県中央募金会のご助成による無料 「オンライン授業：『福祉および障がい支援：聴導犬・介助犬ってどんなことをするの?』」をご希望の小学校様とさせていただきます。ぜひ、ご応募いただきたく、よろしくお願いいたします	http://www.hearingdog.or.jp
中信														○	遠藤 麻衣	自身の骨髄バンク登録の経験や最愛の母親の臓器提供の経験を通して、命の大切さを伝えます。身近にいる家族を改めて考えて、「当たり前で過ごしている日常はかけがえのないもの」、「生きているということは素晴らしいこと」ということを自分事に引き寄せて考える機会になればと思います。 演題（例）：「いつかの言葉が希望になる～臓器提供と家族の思い」「命のバトン～医療者じゃなくてもできること～」「いつかの言葉が希望になる～私と母が話していたこと～」	
中信 東信														○	猪又 竜・井出 今日我	見た目で見える特徴をもつ井出今日我(筋ジストロフィー、電動車いすユーザー)と、見た目で見えない特徴がある猪又竜(先天性心疾患)がタッグで講演いたします。2人が同じ場で話をすることによって、聴講される方々が、自分の周りにもいろいろな特徴をもっている人が当たり前で暮らしているということを知ってもらいます。 多様性の話を通して、人々は特徴や能力が違い、得意な事・不得意な事、できない事・できる事がある事に気づいてもらいます。そして助け合いながら生きているのだという事をお伝えします。できないことや苦しいことがあっても、誰かに助けてもらえば良いこと、そして自分は自分のままで良いのだということをお話しします。きっと自己肯定感が上がると思います。 「きみはきみのままでいいんだよ、大丈夫。好きなことや得意なことをしっかり伸ばしていけば誰かを助けてあげられる人になれるし、自分らしく生きていけるんだよ」というメッセージを届けます。 「みんな同じことができないことが当たり前」なんだと気が付けば、友達と自分を比較して、できないことがあると自分を責めてしまうこともなくなるはず。 井出と猪又が掛け合いながらお話を進めていきます。また、会場とのやりとりもありますので、会場は盛り上がると思います。 ※内容は聴講する年齢に合わせて調整いたします。 ・長野県教育委員会 人権教育講師派遣事業 講師 ・長野県ヘルプマークディレクター	
県外		○											○	○	登天ポール（人権教育エンターティナー）	『いじめが社会問題となった2006年10月から「もっとハッピーで行こう」といじめ撲滅をパフォーマンスで訴え続けている。 2007年には212日にわたって、いじめ撲滅全国行脚を敢行。講演会ではまるで一人ミュージカルを見るような演出に工夫を凝らし、全国行脚の体験から、なぜいじめはいけないのか、なぜ命は大切なのかを歌・踊り・映像を交え、エンターテイメント性豊かに訴える。「考えること」よりも「感じること」を大切にしたい人権コンサートです。 県内実績は、白馬村立白馬中学校、麻績村筑北村学校組合立筑北中学校、塩尻市立丘中学校、下條村立下條中学校、千曲市立更埴中学校、伊那市立西箕輪中学校、伊那市立西箕輪小学校、小諸市立小諸東中学校で講演。（2022年1月現在、小学校 172校 中学校 211校 生涯学習71施設、計454講演） 経歴 2012年9月 日本青年会議所「人間力大賞」特別賞受賞 2012年12月 NHK「おはよう日本」にて特集放送 2013年10月 内閣府青年社会活動コアリーダー育成プログラム英国派遣 2017年～現在 大阪府豊中市こども未来部「出前講座」講師3人の一人として選出	http://toutenpaul.com/
県外														○	中村 弘二	42年間少年院や刑務所で矯正教育をしてきましたが在職中から「罪を犯してから指導するのでは手遅れである。罪を犯す前に教育しなければならない」と思っていました。 退職してから豊富な体験を基に、中学校、高校の生徒や地域の人に公開授業、又は教育委員会主催の生活指導主任研修で講演をさせていただいております。	